

報道関係各位

**日本生命とCIC Japanの共同運営によるイノベーション拠点「O-Nexus」が開業
産官学のトップリーダーが集結し、大阪から世界へ向けた記念式典を開催**

CIC Japan（本社：東京都港区虎ノ門、CEO：デニス・メドレンカ）は、2026年6月2日（火）、大阪・中之島の未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross（中之島クロス）」にて、日本生命保険相互会社と共同運営するライフサイエンス分野特化型イノベーションキャンパス「Osaka Life Science Nexus by Nippon Life and CIC（以下、O-Nexus）」の開業記念式典を開催いたしました。

当日は、行政・医療・大学・投資家・スタートアップ・大企業など、国内のライフサイエンス領域を牽引するトップリーダーが集結し、大阪から世界へ向けた新たなイノベーション創出拠点の始動を祝いました。



式典の冒頭では、主催者を代表して、日本生命保険相互会社 常務執行役員 増山尚志氏ならびにCIC Japan 会長 梅澤高明より挨拶が行われました。

■日本生命保険相互会社 常務執行役員 増山尚志氏 ご挨拶

「今回の構想は壮大な夢のような部分もありますが、やはり大きく夢を語らなければ成功には繋がりません。私たちにとっても新しいチャレンジではありますが、関係者の皆様と一緒に、ヘルスケアや介護など『保険以外の新しい安心』を社会に広げていくこの取り組みを、必ず成功へと導いていきたいと強く思っています。」

■CIC Japan 会長 梅澤高明 ご挨拶

「O-Nexus には、すでに60社を超えるスタートアップと、20社を超える事業会社や関係機関の方々にご入居いただいています。産学官が連携したこれほど強力なエコシステムを形成できる場所は、日本でも類を見ません。私たちCICとしては、この場を通じてスタートアップの『規模化』と『国際化』の支援に全力を注いでまいります。」

続いて行われたテープカットには、厚生労働省 医政局 医薬産業振興・医療情報企画課 創薬支援対策室長 川端輝彦氏、経済産業省 イノベーション・環境局 イノベーション創出新事業推進課 スタートアップ国際連携企画調整官 澤田佳世子氏、大阪府 副知事 山口信彦氏、一般財団法人未来医療推進機構 理事長 澤芳樹氏らも登壇し、O-Nexus の開業を祝うテープカットが執り行われました。

さらに、ご来賓を代表して大阪府 山口副知事、厚生労働省 川端氏、経済産業省 澤田氏より祝辞が述べられ、新拠点に対する期待が寄せられました。

■大阪府 副知事 山口信彦氏 ご挨拶

「O-Nexus がライフサイエンスに特化したイノベーションキャンパスとして誕生したことで、中之島クロスの機能が大きく向上すると確信しています。大阪・関西万博を機に、この拠点から企業家、投資家、研究者が交流し、ヘルスケアやライフサイエンス分野の新しいイノベーションが創出されることを府としてもしっかりとサポートしてまいります。」

■厚生労働省 医政局 医薬産業振興・医療情報企画課 創薬支援対策室長 川端輝彦氏 ご挨拶

「国としても創薬エコシステムの構築は重要な課題です。O-Nexus が、基礎研究から臨床、実用化に至るまでのシームレスな支援の場となり、日本発の革新的な医薬品や医療機器が世界に届くための重要な拠点となることを大いに期待しております。」

■経済産業省 イノベーション・環境局 イノベーション創出新事業推進課

スタートアップ国際連携企画調整官 澤田佳世子氏 ご挨拶

「ディープテック分野、特にライフサイエンスにおけるスタートアップの育成は、日本の競争力強化に直結します。中之島というポテンシャルの高い場所に誕生した O-Nexus が、今年秋に開催するGlobal Startup Expoと合わせて国内外から起業家や投資家を惹きつけ、イノベーションを創出し世界に貢献する中核となることを期待しております。」

■「未来医療の産業化」をテーマに熱量高いトークセッションを開催

式典後半では、「未来医療の産業化と O-Nexus の役割」をテーマにトークセッションを実施。CIC Japan 会長 梅澤、未来医療推進機構 理事長 澤氏、みやこキャピタル株式会社 代表取締役社長／パートナー 三澤宏之氏の3名が登壇しました。



はじめに「大阪・関西がライフサイエンス分野における国際的イノベーション拠点として発展するために必要なこと」をテーマに、研究・資本・事業会社・行政が一体となって挑戦を支えるエコシステム形成の重要性について議論が交わされました。

続いて、「スタートアップや大企業・中堅企業発の新規事業が国際化・規模化を実現する上での課題」について、グローバル市場を前提とした事業開発や資金調達、人材・ネットワーク不足など、日本特有の構造的課題について意見が交わされました。

最後に、「それらを乗り越えるために、大学・スタートアップ・既存企業・投資家・行政はどう協働していくべきか」をテーマに、組織や立場を超えたオープンイノベーションの重要性や、実証・事業化までを一気通貫で支援する場としての O-Nexus の役割について語られました。

澤氏からは「大学の優れた技術を社会実装するためには、経営を牽引する人材の育成と集積が不可欠である」と本拠点への期待が語られました。これを受け三澤氏は投資家の立場から、「グローバルで戦える強力なチームビルディングと、多様なプレイヤーによる偶発的な出会いが重要である。」とコメント。梅澤は「CICの海外ネットワークをフル活用し、日本発のスタートアップが最初から世界を見据えてスケールアップできる環境を提供していきたい」と語りました。三者の強みが交わり、O-Nexus を起点として世界市場を目指す「強力なエコシステム」の重要性が再確認されるセッションとなりました。

多様なプレイヤーが交わり、新たな共創を生み出す場としての O-Nexus の可能性が力強く語られ、会場は未来医療への期待に包まれました。

会の最後には、未来医療推進機構 澤氏より閉会のご挨拶が行われました。

■ 一般財団法人未来医療推進機構 理事長 澤芳樹氏 ご挨拶

「O-Nexus という素晴らしい拠点が誕生しましたが、できたのはまだ単なる『箱』に過ぎません。イノベーションを起こすのは施設ではなく『人』です。重要なのは、ここに集う皆様がいかにこの環境を使い倒し、主体的に動いていくかです。今日をスタート地点として、ぜひ皆様と一緒に新しい未来医療の形を作っていきましょう。」

O-Nexus は、本開業式典を次なる飛躍への起点とし、未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross」内での「Global Startup Expo」の開催などを通じて、大阪から全国、そしてグローバルへとつながるイノベーションの波を巻き起こしてまいります。

O-Nexus コンセプト

Osaka Life Science Nexus by Nippon Life and CIC（O-Nexus）は、ライフサイエンスを軸に、人々の健康寿命の延伸に貢献する技術・サービス・知恵が集い、社会へと実装されていくための拠点です。大阪・中之島は、古くは江戸幕末の適塾創始者である緒方洪庵先生による西洋医学の普及にはじまり、近代以降、日本経済の急成長の一角として、金融、研究、医療、学術といった社会基盤機能が集積し、産業や技術を社会へとつなぐ役割を担ってきたエリアです。研究開発やものづくりの現場を支え、意思決定と知が交差する場として、日本の近代化と産業の発展を下支えしてきました。

O-Nexus は、この中之島が培ってきた「人・知・資本が交わる土壌」を受け継ぎながら、次の日本の成長を担う日本を代表するライフサイエンスの結節点として、日本国内はもとより世界から集まる挑戦を世界へつなぐ発信地となることを目指します。

研究者、スタートアップ、大企業、大学、医療機関、投資家、行政が立場を越えて集い、偶発的な出会いと実践的な協働を通じて、新たな技術やサービスが生まれる。O-Nexus は、閉じた研究施設ではなく、社会と産業をつなぐ「開かれた場所」として設計されています。中之島が担ってきた社会実装の役割を、現代のライフサイエンスで更新し、日本の未来を支える技術と価値を世界へとつなぐ。その結節点となることが、O-Nexus の使命です。

施設概要（3100平米）

- ・プライベートオフィス：123個室（1名～最大15名）*隣接する部屋を連結できるオフィスもあり
- ・ワーキングスペース：25席
- ・会議室14室

・フーンブース13室 (車椅子対応ブース1 室含む)

ホームページ

<https://www.o-nexus.jp/>

内覧に関するお問い合わせ先

O-Nexus Sales チーム

E-mail : o-nexus@cic.com

TEL : 070-4323-0829

日本語での内覧申込は[こちら](#)

Click [here](#) to schedule a tour in English